

災害時、無人となります。

※友部消防署・岩間消防署のみ

平成31年4月1日から、災害現場で活動する消防隊員を増やし、更なる消防力の強化を図るため、友部消防署と岩間消防署は、火災や救助等の災害に出動する場合は無人となります。このことにより、より円滑で組織的な消防活動が可能となります。出動中以外は、今まで同様無人になることはありません。また、笠間消防署はい



消防署が無人となった場合の対応について

かなる場合でも無人になることはありません。

駆け込み救急や来訪者への 対応については、玄関先のインターホンを使用し、笠間消 防署と通話することができま す。電話対応についても、転 送機能を使って今まで同様 24時間対応します。





災害情報について

災害の発生状況については、テレフォンサービス またはいばらき消防指令センターのホームページを ご覧ください。

- ◆笠間市消防本部災害案内テレフォンサービス TEL 0296-73-0919
- ◆茨城県消防救急無線・指令センターホームページ http://www.ibaraki-sirei.jp/

【問い合わせ】 消防本部総務課 (石井・栃本) TEL 0296-73-0119

Broaden your Horizons

日本に来てしばらくの間、「日本人と議論する時に温 度差があるなあ」とよく思っていました。日本ではどち らか一方の立場(賛成or反対)に立って意見を主張する ことがないと感じたのです。

私の育ったアメリカは議論文化が定着していて、賛成か反対か意見をはっきりしなければいけません。学校の授業では、小論文をたくさん書かされました。あらゆる議題(銃規制、教育、死刑、環境等)について小論文を書きます。どちらか一方の立場で自説を主張し、論理的思考と自己主張力を養うのが目的です。これが結果として議題にあまり知識・関心がなくても、常に立場を主張し合うという習慣につながっている気がします。メディアでさえも二者択一という考えを助長し、世論がさらにそれを助長しています。そのため、気軽な会話の中でも誰とでも議論し、相手の立場を知りたがります。また、賛成でも反対でもない中立な意見に対し「気に入らない!」と怒る人もいます。私はそのような環境で育ちました。自分の立場を主張できる事が理知的だと考えていました。その考えに疑問を抱くことはありませんでした。

しかし、日本に来て新しい考え方に出会いました。日本人に意見を尋ねた時、賛成・反対の両意見が返ってきました。最初は賛成or反対の白黒じゃない答え方に「どっ



ち?」と思って戸惑いました。私は優柔不断にも見える中立の意見や無関心にも見える態度が理解できずにいました。意見を持たないのは悪いことだと思っていました。

しかし、それは文化的偏見でした。時間と共に、どちらの主張も一理あり、すべての答えにはっきり白黒をつけなければいけない理由はないと思うようになりました。日本人は意見を持っていないわけでも優柔不断でも無関心でもない事に気付きました。本当は、一方の意見だけに縛られず、広い視野で他方の意見にも耳を傾けるようにしていたのです。日本人は両方の立場になって考えてくれる優しい人です。私も常にさまざまなことに対し広い心を持てるよう、見習いたいと思っています。

【問い合わせ】市民活動課(内線133)